

令和元年度

自己評価報告書

学校法人 重里学園  
日本分析化学専門学校

令和2年6月23日

## ■令和元年度の重点目標

1. 高等教育の修学支援新制度への対応
2. 高大接続入試への対応
3. ICT化への対応
4. 文部科学省委託事業の受託と化学検定の構築

## ■令和元年度の自己評価について

平成30年度の評価との相違点は以下の通りである。

### ◇向上したもの

1. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを、学生、関係業界、保護者等に周知しているか  
大阪の専門学校が設定・公表を奨励されている3つのポリシーの中で、教育の目的や育成人材像については、可能な限り定量化できる目標値を設定し公表することを決定した。
2. 社会のニーズ等を踏まえ、学校の将来構想を描き、中期的構想を抱いているか  
計画していた新校舎設立を開始し、同時に授業のICT化などの構想を具体的に進めている。
3. 運営組織や意思決定機能は明確化し、効率的なものになっているか  
学校の経営管理と教育現場の管理体制の役割分担が明確化し、意思決定は迅速に進めることができた。
4. 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定めているか  
到達目標として、学校全体、化学知識・技術、実務実践力の3種別ごとに具体化。さらに定量化できる目標値を設定した。その際、目標とする資格や実務実践力（社会人基礎力や人間力）については、業界のニーズを勘案し決定した。
5. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）を実施できているか  
職業実践専門課程として、新たに健康化学分析学科、分析化学応用学科について、文部科学省から認定を受けることができた。

**6. 資格取得率の（全学生を分母とした）向上が図られているか**

次年度から化学分析技能士3級の2年生の全員受験を決定。また、危険物取扱者、ビジネス能力検定と併せて、合格率を目標値として設定し、公表することを決定した。

**7. 学生募集活動は、適正に行なっているか**

願書受付始期、AO入試運用基準など、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会のルール策定の責任者が本校校長であり、ルール作りを先導していると同時に、それらの普及のための講演等を全国各地で実施している。

**8. 財務情報公開の体制整備はできているか**

高等教育の修学支援新制度への対応として、ホームページの情報公開を充実させた。

**9. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか**

文部科学省、大阪府、全国専修学校各種学校総連合会からの法令等の改正状況の情報等を常時把握し、該当情報があれば担当者へ即時連絡することへの対応を向上させた。

**10. 留学生の受入れ、派遣について戦略を持って行っているか**

当該年度に入学した留学生3名の受け入れの際、それらの指針を明確化させた。

◇低下したもの

**1. 人事や賃金での処遇に関する制度を整備しているか**

制度は整備できているが、評価という点では以前より頻度や体制が後退している面がある。

**2. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保できているか**

授業等に支障はないものの、専任講師については当初計画していた採用人数に至らなかった。

**3. 施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか**

施設・設備自体は整備しているが、保守管理する体制と情報共有という点では前年度を下回った。

自己評価および学校関係者評価のスケジュールについては以下の通り。

- ・ 令和2年6月10日 自己評価委員会により原案作成、提示
- ・ 令和2年6月18日 部門責任者（教育、事務、法人）による評価を実施
- ・ 令和2年7月17日 学校関係者評価委員会 開催

令和2年6月23日

日本分析化学専門学校 自己評価委員会

## 本校の教育目標

わが国における最も重要な課題は、経済の安定成長と維持、エネルギー資源の安定確保、生活環境の向上、地球環境の保全、食料の安定供給、国民の健康増進、医療技術の充実等を図ることであり、これが日本のこれからの最も望ましい在り方だといえます。

そして、この望ましい在り方を実現するためには、「科学技術の振興」を図ることが重要であり、その大きな支えとなっているのが「分析化学」です。

分析化学とは、地球に存在するすべての物質（モノ）の中に、「なにが、どこに、どれだけ、どのように存在し、どんな役割をしているか」を、さまざまな手法を使って明らかにしていくこと。

この分析化学は、産業界における事業発展の最大の鍵を握る研究開発部門をはじめ、製造、品質管理、品質保証等の技術部門には欠かすことのできない技術であり、科学技術の進歩発展に果たす役割は大きく、ひいては我が国の未来への発展という観点からも、普遍的かつ重要な技術です。

こうした技術者を育成すべく、本校では、関連知識および技術を修得させることは当然のことながら、同時に社会性の育成・向上の教育にも重点を置き、実務教育として以下の三実一体教育を実施します。

- 三実一体教育
- (1) 実学……講義により理解力を深める教育
  - (2) 実務……実験・実習により判断力を養う教育
  - (3) 実践……卒業研究により応用力を発揮する教育

## 自己評価項目 1 「教育理念・目的・育成人材像」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない N.A. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>理念・目的・育成人材像は定めているか（専門分野の特性が明確になっているか）</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校白書やパンフレットでも明示している。</li> <li>・教職員に周知し、学外にも学校白書やホームページ等を通じて公表している。</li> <li>・新たな取組として、3つのポリシー（募集方針、教育目標、到達目標）を設定、公開した。 この取組は全国専修学校の先導役として本校校長が奨励したものである。</li> </ul>		
2	<b>学校の特色として挙げられるものがあるか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校名、教育内容、就職先含め、すべてが分析化学そのものである。</li> </ul>		
3	<b>学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを、学生、関係業界、保護者等に周知しているか</b>	4	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にはC Tを含め日々の指導において周知している。</li> <li>・就職先を含めた関係業界には、求人企業・団体用学校案内内で周知し、保護者等には懇談会の際の配付資料で周知している。</li> <li>・上記1の3つのポリシーについても、パンフレット、HPなどで積極的に広報している。</li> <li>・但し、将来の詳細な全体構想についての周知は出来ていない。</li> </ul>		
4	<b>社会のニーズ等を踏まえ、学校の将来構想を描き、中期的構想を抱いているか</b>	4	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎設立、授業のI C T化などの将来構想を視野に入れ具体的に動いている。</li> <li>・社会のニーズは学校関係者評価委員会、教育課程委員会をはじめ、業界団体・企業・保護者の声を種々の機会に収集し、把握する体制で臨んでいる。</li> <li>・環境分析学科を平成30年度より新設し、環境分野をめざす学生の受け皿とした。</li> <li>・社会のニーズより、医療や臨床検査分野、医薬品分野での就職を目指す学生の受け皿を検討し、有機テクノロジー学科を医療医薬分析学科に改名して充実したカリキュラムとして令和2年度から設置した。</li> </ul>		

## 自己評価項目2 「学校運営」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>学校運営方針は明確に定め、教職員に明示し伝わっているか。</b> <b>また、それを基にした各種諸規程が整備されているか。</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は年度当初の講師打合せ会にて、直接理事長から周知されるほか、それについての冊子「絆」を全教職員に配布。随時週報等でも明示している。</li> <li>・教職員に対し、従来から実施している研修に加えて、教員が共有すべき理念や行動指針等についても、理事長をはじめ、管理職や各班班長を中心に、体系付けた研修を実施できた。</li> <li>・諸規定について、学校法人法規部で各種法規制との整合性確認・検証が継続して進められている。</li> </ul>		
2	<b>学校の目的・目標を達成するための事業計画を定め、それに沿った運営ができているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の講師打合せ会で、理事長・校長が事業計画を定め学内に周知している。</li> </ul>		
3	<b>運営組織や意思決定機能は明確化し、効率的なものになっているか</b>	4	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師打合せ会にて、組織と意思決定については明確化できている。さらに教務内班体制により、学生募集、教育・学事、就職・資格、施設管理等について、責任や担当を明確化している。</li> <li>・各班において業務の効率化を検討し、実現に向けた取り組みを実施しているが、満足できるレベルには至っていない。</li> <li>・学校の経営管理と教育現場の管理体制の役割分担が明確化し、意思決定は迅速に進めることができた。</li> </ul>		
4	<b>人事や賃金での処遇に関する制度を整備しているか</b>	3	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則や関連諸規定により整備している。</li> <li>・学生募集で効果が出れば、その結果として賃金改善にあたることを周知し、教職員のモチベーション向上を目指している。</li> </ul>		

5	<b>教育活動等に関する情報公開を適切に行っているか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々のブログを中心に、教育活動の公開は積極的に行っているほか、夏期休暇中には学生へ母校高校訪問を義務づけ、本校での学生生活について当時の担任を含む先生方に紹介し、それに対する学校への評価もいただいている。</li> <li>・企業や高校の先生、入学検討者、専門学校・大学等関係者等からの授業・実験見学の要請に応じている。</li> <li>・教員による学生出身高校などへの高校訪問を定期的実施し、情報公開を行っている。</li> </ul>		
6	<b>情報システム化等による業務の効率化を図っているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度より学内グループウェアの運用を試験的に導入し、業務の連絡・情報共有が円滑になってきている。</li> <li>・業務の効率化を目的の一つとして、学生の入学前・在学中・卒業後の各種情報を一元管理するシステムの選定を行い、運用を開始している。活用をして効率化できた部分もあるが、十分に活用できているとは言えない。</li> </ul>		

## 自己評価項目3 「教育活動」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて正しい方向付けができていますか</b>	5	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価委員会、教育課程委員会等にて確認、状況により修正ができています。</li> <li>・求人企業等との折衝などの機会に確認し、概ね正しく方向付けができています。その内容（求める人物像・求める資格など）について、求人票に記録を残し、情報の共有化を図っている。</li> </ul>		
2	<b>各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定めているか</b>	5	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識、技術については、「総括的な教育目標」や学科ごとの「カリキュラムフロー」において、できることの見える化を図り、到達目標の明確化もできた。但し、学生に還元する方法については、さらに検討が必要である。</li> <li>・各講師から提出されたシラバス、授業予定を含むコマシラバスについて、事前にチェックし、目標に沿った授業が展開できるかを評価する体制を継続して実施できている。</li> <li>・到達目標として、学校全体、化学知識・技術、実務実践力の3種別ごとに具体化。さらに定量化できる目標値を設定し、内外に公開した。</li> </ul>		
3	<b>カリキュラムは体系的に編成されているか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムフローにおいて体系的編成の上、教育課程委員会において、定期的な見直しを実施している。</li> </ul>		
4	<b>実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記2同様であることに加え、「化学分析技能士」や「毒物劇物取扱責任者」などの国家資格の受験資格や無試験取得への要件を満たし、カリキュラム上の工夫はできている。</li> <li>・個別教員の教育手法については、学生アンケートの実施をはじめ評価できているものの、全体的な教育方法の工夫や開発については個々の教員に委ねられており、情報の共有は十分とは言えない。</li> <li>・教育課程委員会の学外（企業）委員の要望に基づいて、ワープロ・表計算ソフトのスキルを確認するPC 実習の実施も継続するとともに、そのスキルだけでなく原理・原則を教授していくことになった。また、モル濃度の計算が確実にできるように教育してほしいとの意見があり、次年度より、説明に重きを置く科目と演習問題を解くことに重点を置く科目の棲み分けを行うことで演習の機会を増やし、より効果的な教育が行えるように整備することにした。</li> </ul>		



5	<p><b>関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）を実施できているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年制学科は、分野の特性上インターンシップが困難であるが、それに代わる代替措置として企業内の実習・見学や、企業等の講師による授業を実施している。</li> <li>・関連分野の企業と共同研究を行い、昨年度は学会で専門学校からは初の発表を行い（におい・かおり環境学会）、今年度も引き続き発表を行うなど、学生は取り組んでいる卒業研究を発表し、外部の評価を実感し、第一線の研究を見て学べる機会となっている。</li> <li>・職業実践専門課程として、新たに健康化学分析学科、分析化学応用学科について、文部科学省から認定を受けることができた。</li> </ul>	4	3
6	<p><b>授業評価の実施・評価体制はあるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業評価を実施し、学内でその結果を公開している。</li> <li>・上記授業評価において、改善が必要な教科担当者には、管理職者・教育班で授業等の実施状況を確認し、必要に応じた助言を行うようにしている（今年度は学生評価を反映し、校長から三度指導したケースがあった）。</li> <li>・上記授業評価とは別に、年間1回の講義等アンケートを学校法人も実施している。</li> </ul>	4	4
7	<p><b>教育内容について、外部関係者の評価を取り入れているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分友会（卒業生組織）の年一度の総会の際、アンケートにより実施している。</li> <li>・年二回の教育課程委員会や年一回の学校関係者評価委員会などの学外委員の意見に基づき、その実現策を検討し、教育内容に積極的に取り入れている。</li> </ul>	4	4
8	<p><b>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学則で明確化するとともに、進級・卒業については判定会議を開催している。また、それらの基準はホームページでも公開している。</li> </ul>	4	4
9	<p><b>資格取得等に関する指導体制はあるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取得を目標とする資格と、カリキュラムフローの関係性について明確化することができている。</li> <li>・授業時間外の活動として、定期的に「資格取得対策講座」を開講し、希望する学生に指導している。</li> <li>・求人票様式に必要な資格の記入欄を設置し、企業が求める資格、ひいては業界ニーズの調査を行っている。</li> <li>・資格取得を促進するため、従来から連携しているものに加えて、団体受験が可能な資格試験の実施、また関係する教科目の成績評価に資格取得を反映することができた。</li> </ul>	4	4

1 0	<b>人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保できているか</b>	2	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用募集時に専門的要件は明確化している。その点では確保できていると言えるが、専門技術と同時に必要な社会性への指導力については、採用時の面接等で見極めるのは難しい。そこで、授業・実験を含めた日々の業務の中で校長・副校長等の管理職をはじめ、教員歴の長い教員からの指導により、指導力の向上を図っている。</li> <li>・教職員に対して、従来から実施している研修に加えて、教員が共有すべき理念や精神等についても、理事長をはじめ管理職や各班班長を中心に、体系付けた研修を実施できた。</li> <li>・最低限の業務は、業務を共有することで対処できたが、組織としての底上げはできておらず、人材確保は大きな課題と考える。</li> <li>・授業等に支障はなかったが、専任講師については、当初計画していた採用人数に至らなかった。</li> </ul>		
1 1	<b>関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保できているか</b>	2	2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時ではないが、業界等の推薦によって教員を採用することがある。ただ、システムとして確立していない。</li> </ul>		
1 2	<b>関連分野における先端的な知識・技能等を修得させるための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組を行っているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野においては、外部学術団体をはじめとする各種団体主催の研修会、また、校内および大阪府専修学校各種学校連合会主催の研修会に参加して教員指導力の向上に努めている。</li> </ul>		
1 3	<b>職員の能力開発のための研修等が行われているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部団体主催の研修会参加や校内研修等により職員の能力開発に努めている。</li> </ul>		

## 自己評価項目4 「学修成果」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<p><b>就職率（全学生を分母とし、進学者を含むいわば進路決定率）の向上が図られているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は97.6%、平成30年度は98.2%、令和元年度は98.1%と良好な成績を収めることができた（5月1日現在）。また、関連分野就職率は100%であった。</li> <li>担任による就職指導のみならず、他の教員を含めた学生指名によるマンツーマンでの就職指導體制を構築し、実施することが良い結果をもたらしている。</li> <li>期間目標は共有したが、定例会議等を十分に実施できておらず、計画的な指導體制の見直しはできていなかった。</li> </ul>	4	4
2	<p><b>資格取得率の（全学生を分母とした）向上が図られているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時の資格取得数について、卒業時に取得できる国家資格3種を含めると、平成29年度は8.3種で、平成30年度は8.1種であった。令和元年度は8.6種となり、取得数は上昇傾向となっている。</li> <li>学生への状況調査により取得状況の把握に努め、資格取得講座の開講や個別指導を行い、取得率向上のため関係する教科目の成績反映と、学生への取得奨励を行っている。</li> <li>次年度から化学分析技能士3級の2年生の全員受験を決定。また、危険物取扱者、ビジネス能力検定と併せて、合格率を目標値として設定し、公表することを決定した。</li> </ul>	4	3
3	<p><b>退学率の低減が図られているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度年度当初の在籍者数211名に対して9名（4.3%）、平成30年度は239名に対して16名（7.0%）、令和元年度は271名に対して12名（4.4%）で推移している。</li> <li>退学者削減に向けた施策を教員間で検討。また授業シート配布による学習支援、昼休みの質問時間確保、特別基礎質問講座の設置、土曜日に実施する基礎化学講座の実施などにより、学業不振による退学の防止を図り、精神面で弱い学生への個別面談と併せて、効果が出ていると考える。</li> </ul>	4	3

4	<p><b>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生については、年に一度の同窓会総会での近況の確認や、求人企業から直接評価を伺う機会がある。その内容について、求人企業台帳等に記録を残し、情報の共有化を図っている。</li> <li>・在校生については、専門技術者として評価される機会は少ないが、社会貢献活動（清掃活動、道頓堀川水質調査）についてはマスメディア等から評価を得ている。</li> <li>・年に一度開催の「ふしぎと遊ぼう!青少年のための科学の祭典サイエンスフェスタ」に学生が参加、児童や生徒への科学の普及のためにボランティアとして活躍した。普段の授業や実験で得た知識や技術を活用して、来場者に実験指導などを行い好評であった。</li> <li>・学校全体のボランティア活動として7年前から始めた校内献血活動については、令和元年度も2回実施した。延べ約130名の学生が協力している。</li> </ul>	4	4
5	<p><b>卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度の同窓会総会での確認や、その際のアンケートによって把握しているものの、その内容を分析し、改善について議論するまでには至っていない。</li> </ul>	3	3

## 自己評価項目5 「学生支援」

評価基準 5. よくできている 4.できている 3.普通 2.できていない 1.ほとんどできていない NA.当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任を中心に、また、班体制を構築し全校的に整備し機能している。</li> <li>・学生自らが指導教員を選ぶ指導教員指名制度など、個々の学生のフォローに努めている。</li> </ul>		
2	<b>学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任を中心に相談を受け付け、内容については文書化し、校長をはじめ管理職者が状況を把握。場合により、保護者へ連絡する体制は整備し、文書回覧等により教員間で情報共有している。但し、文書化が遅れ、問題への対処が後手に回るケースがあった。</li> <li>・担任以外でも、昼休み、放課後などに相談しやすい体制（図書資料室への教員の駐在など）を整備している。</li> </ul>		
3	<b>学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能しているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学費免除、特待生・準特待生制度や、学費分割・遅延納入制度、または各種相談窓口があり、支援制度を整備し機能している。平成29年度は分割13名。平成30年度は延納3名、分割14名。令和元年度は分割を12名、当該制度を利用した。</li> </ul>		
4	<b>学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度の健康診断実施のほか、日常の体調不良、実験中のケガなどについては、近隣の医療施設へ教員の付添いで通院をさせている。また、経過、結果も含め記録を残している。</li> <li>・精神的サポートについては、あくまで家庭事情を優先させるものの、状況により医療機関の紹介を行っている。</li> </ul>		

5	<b>課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業以外にもスポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動、その他の活動に対する支援体制を整備しているが、クラブによっては入部者の減少などもあり、有効に機能しているとは言いがたい。また、これらの活動は、学校推薦での就職活動の際、学内選考基準として評価している。</li> </ul>		
6	<b>学生の生活環境への支援は行なわれているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生寮は無いが、遠隔地出身者に対しては、24時間サポートのある一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会のSPS（新生活安心サポート制度）の利活用を奨励している。</li> <li>・一人暮らしの学生を対象に、沿線ごとの周辺環境の紹介、学年を越えた近隣学生の交流会を実施している。</li> <li>・各種トラブルの予防のため年に一度、消費生活相談員による講演会を開催。同じく年に一度、学生の交通安全意識の啓発と事故防止を目的に、交通安全講習会を実施し、学生生活への支援を行っている。</li> </ul>		
7	<b>保護者と適切に連携しているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微な問題であっても、担任により保護者への報告、連携は欠かさない。</li> <li>また、年に一度、全保護者を対象とした保護者懇談会を実施し、個別に面談を行っている。さらに問題の大きな学生については、担任による自宅訪問を実施するなど、適切に連携している。</li> </ul>		
8	<b>卒業生への支援体制はあるか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織「分友会」を組織し、年に一度の総会をはじめ、随時幹事会を実施。但し、長年の懸案である活性化は向上できず、卒業生が満足できる学校からの支援も十分とは言えない。</li> <li>・退職・転職の相談や再就職の斡旋について随時実施している。</li> </ul>		
9	<b>社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人向けとして、土日開講の学科を設置している。</li> <li>・一定の条件を満たした社会人経験者が教育訓練給付金の受給対象となる厚生労働省「専門実践教育訓練講座」の指定を受けた学科を有しているが、すべてではない。</li> </ul>		
10	<b>高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校での出張実験や本校での受け入れによる実験会や講演会の実施など、積極的に高校等のキャリア教育・職業教育の支援を展開している。平成29年度は約300名、平成30年度は約350名、令和元年度は約220名に対し実施した。</li> <li>・高校と連携した職業教育の取り組みとして、無償を前提とした進路ガイダンスにも積極的に参加している。</li> </ul>		

11	<b>関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の卒業生からの質問等には応えているが、プログラムはない。但し、平成25年度に導入した「授業シート」（全授業で毎回配布する授業の重要ポイントを記したもの）は、卒業後の再学習においても貴重なツールであると考えられる。</li> <li>・平成30年度から、文部科学省委託事業として、本校より提案していた専修学校による地域産業中核的人材養成事業「e-ラーニングを活用した化学分野学び直し講座実施モデル構築事業」が採択された。各企業、団体からの協力を得て、実施委員会を設置、卒業後も活用できる学び直しのプログラムの検討と構築を始め、年々実証講座に参画する人数は増加している（平成30年度36名参画、令和元年度147名参画）。</li> </ul>		

## 自己評価項目 6 「教育環境」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか</b>	3	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型の施設・設備については、必要に応じ文部科学省の補助金を活用し新設している。</li> <li>・施設・設備の管理については、班体制を整備しているが、管理状態は低下している。</li> <li>・大型施設・設備以外の機器等については、半期に一度各教員の要望を抽出し、稟議を提出、承認後購入する。</li> </ul>		
2	<b>学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</b>	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外実習は、年に数回の企業等見学により、外部の企業・団体等関係機関と契約・連携し、教育体制を整備している。</li> <li>・年間4回実施の企業を招いての化学実務駅伝で、外部講師による教育を実施している。</li> <li>・海外研修については、世界情勢や参加者減少により現在は中止している。</li> </ul>		
3	<b>防災に対する体制は整備されているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関しては、ISO14001取得と同時に体制を整備し、必要な事柄は手順書を作成。年度はじめの自覚教育・手順教育に加えて、年に一度の防災訓練時（避難訓練）に手順の有効性を確認するなど機能している。</li> <li>・防災設備については、法令に基づいて点検整備を着実に実施している。</li> </ul>		



## 自己評価項目 7 「学生の受け入れ募集」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府情報公開条例に則った、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会発行の高等学校等進路指導室向け「情報カード」への記事参画を通し、各種データについて開示している。</li> <li>・学生に夏期休暇中の母校高校訪問を義務づけ、本校での学生生活について当時の担任を含む先生方に紹介し、それに対する学校への評価をいただいている。</li> <li>・前期及び後期に教員による高校訪問を行い、在校生や卒業生の現状を進路指導部および元担任の先生に説明する機会を設けている。</li> <li>・年に一度、高校の理科教員を対象に実験会を開催して、高校の授業でも実施可能な実験の提案を行い、その際に本校に関する様々な情報提供も同時に行っている。また、都合でご参加いただけない先生方にも当日の配布資料を郵送にて無償提供している。</li> </ul>		
2	<b>学生募集活動は、適正に行なっているか</b>	5	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、願書受付始期、AO入試運用基準など、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会が定めたルールを厳格に守り、適正に行っている。また、その責任者に本校校長が就任し、ルール作りなどを先導している。また、それらのルール奨励のための講演等を全国各地で実施している。</li> </ul>		
3	<b>学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えているか</b>	5	5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職実績、資格取得実績等の教育成果は、全学生を分母にデータを示し、大阪府を通じて文部科学省に提出する学校基本調査（年一回5月1日時点のデータ）にて開示している。</li> </ul>		
4	<b>学生納付金は妥当なものとなっているか</b>	4	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妥当か否かは学生によって評価されるものである。こうした観点から、開校以来の初めての値上げを平成27年度に実施したが、むしろそれ以降の入学者は増加傾向にある。</li> </ul>		

## 自己評価項目 8 「財務」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>中長期的に学校の財務基盤は安定しているか</b>	4	4
	・近年、安定的に入学生の確保ができていないこと。特に今年度は昨年度以上に収支は良好であった。また、令和元年度からは大規模な校舎の耐震工事および増改築工事を開始できるなどの状況からも、財務基盤は安定しているといえる。		
2	<b>予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</b>	3	3
	・年度予算、中期計画は、目的・目標に照らし有効かつ妥当なものとなっている。 ・予算は計画に従って妥当に執行されている。		
3	<b>財務について会計監査が適正に行なわれているか</b>	3	3
	・適正に行われている。		
4	<b>財務情報公開の体制整備はできているか</b>	4	3
	・ホームページ等において財務情報は公開している。		

## 自己評価項目 9 「法令等の遵守」

評価基準 5. よくできている 4.できている 3.普通 2.できていない 1.ほとんどできていない NA.当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</b>	3	2
	・文部科学省、大阪府、全国専修学校各種学校総連合会からの法令等の改正状況の情報等を常時把握し、該当情報があれば担当者へ即時連絡し、適正な運営をしている。		
2	<b>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</b>	4	4
	・資料請求者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し保護のための対策がとられている。 また、情報開示については、入学直後のアンケートにより個人ごと、あるいは未成年である場合は保護者の同意を得ている。		
3	<b>自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</b>	3	3
	・毎年定期的の実施し、問題点の改善に努めている。		
4	<b>自己点検・自己評価結果を公表しているか</b>	3	3
	・学校関係者評価委員会の議事録とともに、ホームページにおいて公開している。		

## 自己評価項目 10 「社会貢献・地域貢献」

評価基準 5. よくできている 4.できている 3.普通 2.できていない 1.ほとんどできていない NA.当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか</b> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献については、以下のようなものを実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張実験会および実験会受け入れ実施（中・高校からの要望で随時実施）</li> <li>・WEBでの化学情報発信【公式アプリ、Twitter、Facebook、Instagram、LINE、Youtube、実験情報紹介ホームページ、化学情報メールマガジン（計2誌）】</li> <li>・学生による道頓堀川の水質調査の実施と結果公開（テレビニュース等にも協力）</li> <li>・学生のボランティア活動について、大阪市一斉清掃「クリーンおおさか」、南天満公園の自主清掃活動、エコキャップ運動、校内献血活動（年2回参加者延べ約130名）に参加するなど、全校的に奨励し、支援している。</li> <li>・年に一度開催される読売新聞社主催「ふしぎと遊ぼう！青少年のための科学の祭典 サイエンスフェスタ」に学生が参加し、児童や生徒への科学の普及のためにボランティアとして活躍し、普段の授業や実験で得た知識や技術を用いて、来場者に実験指導などを行い、好評を得ている。</li> <li>・年に一度、高校の理科教員を対象に、実験会を開催しており、高校の授業でも実施可能な実験の提案を行い、その際に本校に関する様々な情報提供も同時に行っている。また、都合でご参加いただけない先生方にも当日の配布資料を郵送にて無償提供している。</li> <li>・資格、検定等の試験会場として、可能な限り施設開放に応じている。</li> <li>・分化祭（学園祭）にて、地域の方を中心に、学生による各種実験など理科教育の推進に資する活動を実施している。</li> </ul>	5	5
	<b>学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</b> 上記の通り奨励していると同時に、それらは就職活動における学内選考の際、一つの基準として評価している。		
2		4	4

## 自己評価項目 1 1 「国際交流」

評価基準 5. よくできている 4. できている 3. 普通 2. できていない 1. ほとんどできていない NA. 当てはまらない

番号	点検項目（現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等）	今回評価	前回評価
1	<b>留学生の受入れ、派遣について戦略を持って行っているか</b>	3	2
	・戦略的な受入れや派遣は行っていないが、現在3名の留学生が在籍している。		
2	<b>留学生の受入れ、派遣、在籍管理等において適切な手続き等をとっているか</b>	3	3
	全国専修学校各種学校総連合会が定める「専門学校留学生受け入れに関する自主規約・ガイドライン」と、大阪入国管理局からの指導に基づき、また、本校独自の留学生の受入規定を定め、適切な対応を行っている。 本校は「適格校」としても認定を受けている。		
3	<b>留学生の学習・生活指導等について、学内に適切な体制を整備しているか</b>	3	3
	国内学生と同様、担任を中心とした体制を整備し、適宜保証人と連絡を取り合いながら、問題の予防、早期発見に努めている。		
4	<b>学修成果が国内外で評価される取組を行っているか</b>	1	1
	現時点では行っていない。		

## 令和元年度（2019）の総合評価

### 1. 高等教育の修学支援新制度への対応

導入される予定であった標記については、一部時限的緩和はあったものの、大学とほぼ同じ認定基準(教員の実務経験、シラバスや成績基準の設定、法人の情報公開、定員充足率)が示された。

本校としては、学校種や学校の方針の違いによって、本校学生に不利益が被ることのないよう準備を進め、基準をクリアし認定校となった。なお、初年度認定された専門学校は62.3%であった。

### 2. 高大接続入試への対応

令和2年度から、高大接続改革によって大学入試が大きく変化し、願書受付や入試の始期だけでなく、高校生の評価として、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性などが問われることになった。

これらに対応すべく、全国専修学校各種学校総連合会や(一社)大阪府専修学校各種学校連合会が進めている新たな専門学校入試制度の先導役として、3つのポリシー(到達目標、教育目標、募集方針)の設定、公表や、化学力評価を始めとする入試改革にいち早く取り組んだ。

### 3. ICT化への対応

小学校・中学校・高校は、温度差はあるものの、国や地方自治体によって教育のICT化が確実に進んでいる。

一方、ネット出願でさえ大学は過半数の導入が進んでいるにも関わらず、専門学校は大阪で20%程度、東京でも10%程度と、その導入が進んでいないことから、専門学校のICT化は進んでいない。

本校は新校舎の新設工事と同時に、ICT化を目標に定め、全館無線LANや電子黒板、最先端のプロジェクター導入を計画し、具体的に進めることができている。

### 4. 文部科学省委託事業の受託と化学検定の構築

平成30年度に続き、「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」eラーニングを活用した化学分野学び直し講座実施モデル構築事業を受託し、社会人を対象としたカリキュラム開発に取り組み、実証講座を開設した。

結果、前年度実証講座を大きく上回る参加者を得た(平成30年度36名参画、令和元年度147名参画)。

また、これらの結果を踏まえ、将来導入を目指している化学検定構築の基本的な方向についても整理できつつある。

以上